



※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

「第 9 期奨学生の面接を終えて」

2016年4月3日（日）13:00から15:30頃にかけて、U委員、E委員、および私の3名で第9期奨学生の面接試験を行い、ヴェトナム（女子）、フィリピン（男子）、ヴェトナム（男子）にルーツをもつ計3名の高校生を奨学生として採用することに決定いたしました。

今回は応募者が計8名と、昨年に比べてかなり少なかったため、書類選考は行わず、8名全員に面接試験を行いました。

全員の面接後、3名の審査委員で意見交換の結果、例年の基準に従い、将来および高校での目標の明確さ、ボランティア活動への参加意思、中学校での学習状況、家族構成等から推察される困窮度合い、ロールモデルとしての可能性等から、上記3名の採用を決定いたしました。

採用になった3名は、いずれも上記判定基準を十分に満たしており、今後の成長が楽しみな人材ばかりです。

他方、今回は半数の応募者の家庭が母子家庭であり、中にはそのことでかなり苦勞をしている様子の応募者もありました。特に、母親の日本語運用能力が充分でない場合、学校の先生との連絡はもちろん、親子の間の意思疎通すらままならない場合があることが想像されます。採用には至らなかったものの、彼等の今後が気になります。

U委員、E委員には、長時間にわたり丁寧に面接にあたっていただき、あらためて感謝申し上げます。この奨学金活動も来年で10年を迎えます。この間、既に18名の奨学生への支給を完了しましたが、いろんな事情を抱えながらも、みな、無事に高校卒業することができたことは、大変喜ばしいことだと思います。他方、定住外国人をめぐる経済環境は、残念ながらこの10年で良くなったわけではありません。今後とも当奨学金活動への支援をよろしくお願い申し上げます。

(実行委員長 樋口大祐)

奨学生からのメッセージ

新奨学生からは自己紹介を、卒業生からは後輩へのメッセージなどを、その他の奨学生からは自分でテーマを決めて作文を書いてもらいました。

Kさん (9 期生)

1. 自己紹介

ルーツのある国はベトナムで、日本で生まれました。ベトナムには幼い時に 1 回しか行ったことがないので、あまりよくわかりませんが、日本のテレビで見て、ベトナムのいいところがたくさんわかりました。

中学校ではバスケ部に入っていて、部活で学んだことを学校行事等で生かしていました。

中学校の時に苦手だった英語を高校で克服したいです。高校ではバスケも勉強も頑張っていて、将来の夢やどんな仕事に就きたいかを見つけてそれに向かって勉強を頑張りたいです。最近では他の国の言葉や文化に興味を持ち始めて、高校でもっと詳しく学んでいきたいと思います。

僕はずっと日本で住んでいるので、家族との会話は日本語混じりのベトナム語で、初めの方は会話が難しかったけど、今ではできるようになって、もっとベトナム語を学んでいきたいです。ベトナム語を読んだり、書いたり出来るように頑張りたいです。

2. 高校進学してどのようなことがしたいと考えていますか。

高校では勉強も部活動も両立したいです。勉強は理系と文系で分かれています。僕は理系の方に進んで、数学と理科を詳しく学びたいです。

ボランティア活動にはできるだけ参加して、困っている多くの人のために働きたいです。

今は特にこれといった夢ややりたいことがないので、高校の先生やお父さんとよく相談して、大学進学したいです。

3. 将来の夢

将来の夢や将来就きたい職業がまだはっきりとしてないけど、高校生活の中で見つけていきたいです。

Gさん (9 期生)

1. 自己紹介

小学校 2 年生の時に日本にきました。最初はいろんなことに戸惑い、日本語が分からないという恐怖に追われてたくさん苦労しました。小学校ではバンベという教室で一から日本語を勉強しました。日本語が分かるにつれて友達や先生たちとのコミュニケーションがとれるようになって、毎日が楽しかったです。3 年生の時、日本語ベトナム語スピーチコンテストで賞をとることもできました。6 年生では、陸上大会のリレー選手とソフトボール投げの選手にも 2 回選ばれました。毎朝、早起きしてキツイ練習で肉離れにもなりましたが、それでもあきらめずに朝練も一日も休まずにがんばりました。この姿を見てくれた K 先生が関西のスピーチコンテストをすすめてくれて見事に最優秀賞をとることができました。日本語サポート教室の先生たちのおかげで、たくさんのいい経験ができました。中学校では部活のレギュラーになり、みんなと部活に励みました。

2.高校進学してどのようなことがしたいと考えていますか。

気を抜かずに勉強をがんばって漢検や英検をとって、3 年後には希望する看護専門学校に合格したいです。

3.将来の夢

看護師になりたいと思っています。

P さん (9 期生)

1.自己紹介

僕はフィリピン人です。フィリピンにうまれましたが、8 歳の時に親の仕事で日本へ行きました。その頃、まだ小学生の僕は海外のこと、日本のことも知りませんでした。今までになかった環境に暮らし、そして聞いたこともない日本語を勉強しなければなりません。

日本にきた時期、学校でのサポートはありましたが、2 週間に 1 回からどんどん減り、自分から積極的に先生や外国人支援の学習支援を行っている団体で教えてもらいました。このように少しずつでしたが、小学校 4 年生になった時期は日本語ができるようになりました。友達と接することができ、さらに周りの人たちのおかげで、どんどん伸びました。

現在は日本に来てから 8 年が経ちます。F 高校に入学することができました。今までのことを振り返ってみると辛い事が多く、努力しました。ここまできて、いろんなチャレンジを乗り越えることができたのは、友人、先生、そして家族がサポートをしてくれたおかげです。ここからも苦勞することがあり、辛いことも多いと思います。あきらめずに、頑張り続けたいと思います。

2.高校進学してどのようなことがしたいと考えていますか。

高校は中学校と違っていろんな人がいます。いろんな人とコミュニケーションを取り、人としてお互いを理解できるようになりたいです。それと共に大学に進学したいとおもっているので、勉強を頑張りたいと思っています。中学校より、勉強をもっと細かく勉強します。今まで、苦手な教科をリセットし、また勉強ができると思います。だから、大学に向けて、自分のためにもがんばりたいです。

ボランティアでは先輩から頼れる人、後輩からロールモデルとみられるようにがんばりたいです。

3.将来の夢

僕は海外を旅したいという夢があります。だから、高校の国際科に入学しました。海外に行くためには世界共通語となっている英語を勉強しなければなりません。この高校は英語に力を入れているので、将来の夢を達成することの大きな一歩だと思い、この高校にしました。これからも、少しずつでも目標を達成できるように頑張りたいと思います。

K さん (8 期生)

「新学年を迎えて」

僕はこの 4 月から高校 2 年生になります。学年が上がり、どういう年になるのかな、という楽しみな反面、不安もあります。その理由として、まず勉強が追いつくかどうかです。学年が 1 つ上がり、より深く、より難しく授業を進めていくのかと思うと、本当に不安な気持ちでいっぱいです。また、小テストが増えると聞いたので、気を引き締めて勉強を続けることができるのかと心配な気持ちもあ

ります。ですが、自分の志望する大学にいけるようにするには、授業で学んだことや小テストをコツコツと成し遂げていくことが大切だと思います。なので、時間はかかりますが、慣れていくまでしっかりと勉強を頑張ります。

もう 1 つは、この春から入学してくる新 1 年生の先輩としてやっていけるかということです。高校で初めての後輩が入学してきますが、ちゃんと先輩らしく学習面や行動面で手本となれるのかあまり自信がありません。けれども、1 年間高校生としての経験があるので、委員会や部活動はもちろん、普通の学校生活から先輩としての自覚を持ち、後輩から尊敬される存在になればいいなと思います。

不安なことばかりではありません。楽しみにしていることもあります。文化祭や体育大会、修学旅行など。中でも、最も楽しみにしていることは、夏にある「マレーシア、オーストラリア国際交流・語学研修プログラム」です。僕は入学する前からこの語学研修プログラムに興味があり、外国と日本の違い、教科書で学んだ文化や歴史を、実際自分自身の目で見て、肌で感じる事ができたらなと思いい応募しました。30 人を超える応募人数でしたが、無事受かることができました。

研修に行く時期は 7 月末から 8 月頭で、マレーシアに 2 日、オーストラリアに 15 日間ほどの滞在となります。海外に行くのは初めてなので、言葉がちゃんと通じるか不安もありますが、海外の素晴らしい所や文化・マナーの違いを知ることができるので、とても楽しみにしています。海外に行ける貴重な体験をすることができるので、現地の方々とのコミュニケーションを大切に過ごしたいです。そのためにも、学校で前もって準備されている事前研修をそつなくこなし、この語学研修を有意義なものにしたいです。

僕はこの 1 年間で大きく成長することができたらいいなと思います。

Bさん (8 期生)

「夢」

私には夢があります。私は将来作家になりたいです。私は高校一年生の時にある本に出会い作家になりたいと強く思うようになりました。その本は芥川龍之介が書いた「地獄変」、「羅生門」、「藪の中」、「奉教人の死」、「歯車」等です。私はそれまで笑える本や図鑑などの学問に関連した本などを好んで読んできました。しかし芥川龍之介の本に出会ったことで、物語を深く考えるようになりました。だから私は読んでいてドキドキするような本が書けるようになりたいです。

私は今外国籍なのですが、外国人が日本で暮らしていくのは難しいと感じています。言語や文化、習慣の違いはありますし、外国に住むというだけで不安になります。それでも日本が好きで日本のために働きたい、日本に住みたいという外国人向けの本の制作にも携わりたいと思っています。

私は和歌などにも興味があります。日本にいる外国人のサポートだけでなく、外国にいる方にも日本について紹介していきたいです。そのためにも文章を書く力、英語の力などをのばしていきたいです。

日本文学や外国人向けの本を作る作家になるためにも、今後は単語を調べて覚えるだけでなく、日記の中で使ったり、ボランティア活動で小学生に教えたりして、自分のボキャブラリーを増やし使いこなせられるように努力していきます。

Dさん (8 期生)

「10 年後に私はこうなりたい」

私は 10 年後にはどうなっているのだろう。私は 20 代後半になったとき、きっと大学を無事に卒業

して、働いているだろう。私は将来ホテルスタッフかグランドスタッフになりたい。なぜかという、私は小学校 6 年生まで、外国に住んでいた。そして、日本語が全くわからない状態で、日本にやって来た。言葉の問題や文化の違いなど、日本での生活が大変だった。人と上手くコミュニケーションがとれず、誤解を生むこともあった。学校の授業が理解できず、そのせいで、学力がとてつもなく落ちてしまった。そのような生活が嫌で、何回もあきらめそうになり、泣いてしまった。でも日本はとても魅力的な国だと思う。人々も優しく、文化が素敵だと思う。だから、私はそのような素敵な国を外国人の方々に知ってもらいたいし、そして、日本に来る外国人の方々が困らないように、役に立ちたいと思い、将来はホテルスタッフかグランドスタッフになりたいと思う。

仕事だけではなく、なりたい大人もある。私はしっかりと、責任感のある大人になりたい。自分は今ちゃんとしてなくて、失敗を何度も繰り返している。そんな自分が嫌で、将来はしっかりした大人になりたい。また笑顔が絶えない、優しく、爽やかで、あいさつをきちんとできる女性になりたい。周りの人を幸せにできる人になりたい。できれば、子どもを産んでも、仕事を続けたい。充実していて、仕事や子育てだけでなく、いろいろなことに挑戦できる、余裕のある人になりたい。充実しているけど、決して自分は忙しいとは言わず、時間を上手く使って、大切に人になりたい。スペイン語、英語、日本語、ポルトガル語を完璧にこなせて、コミュニケーション能力が高い人になりたい。また、世界中を旅して、世界中でたくさんの友達をつくりたい。したいことがたくさんある。

I さん (7 期生)

「高校最後の 4 月」

川沿いを歩いて突然頭を上げると、ふと視野にあったのは、満開の桜だった。遂に、私にとっての高校最後の四月も静かに訪れた。ここ 2 年を振り返って見ると、かけがえのないことばかりだった。

確か 2 年前、私が K 高校に入学した初日、駅から降りた時もこのような光景だった。桜は車道まで蔽うように咲き、歩道で歩いている人々の顔には幸せな笑みがあり、誰もが春の到来を喜んでいて。そして、私にとり大事なものを得られたのもこの日からだった。

この 2 年で私が得た一番の宝は、間違いなく一緒に向き合ってくれた仲間と友達だった。高校 2 年の時、海外研修という 40 人規模でイギリスの宿泊勉強生活があった。私は昔から忘れ物が多かったため、心配した普段から仲の良い友達が、空港についてから私の貴重品を預かってくれ、面倒を見てくれた。飛行時間が 10 数時間というかなりしんどい環境で、私は特にすることもなく寝ていた。その間も、起きるたびに私の分の食事を自分のテーブルに置いてくれた友達がいて、本当に言葉にできないほどの感動だった。2 年間の付き合いしかないのに、こんな深い友情が築けたことが私にとってかけがえのない嬉しさだった。

そして、青春を託したバスケットボール部の絆も私に大きく影響した。K 高校では男子は珍獣ですから、1 年前までは、私の同期に 1 人の男子、先輩 3 人、そして私の計 5 人で活動していた。初心者の私はいつもチームの足を引っ張っていて、勝利の女神は一度も私たちの味方になってくれず、実績は連敗が続いていた。この少人数の危機の中、弱小のラベルを剥がせずに私たちも引退してしまうと思っていた矢先、なんと後輩が沢山入部し、以前よりにぎやかで楽しい雰囲気の部活になった。私たち 2 年が中心になった新チームは、特に勝つことにこだわりなく、楽しく毎日部活を楽しむことにしていた。ところが、1 か月ほど前のお阪であった大会で、私たちは 3 勝という輝かしい結果を残した。振り返って見れば、楽しく部活をしていた毎日は生活のストレスの発散となり、悩みのない毎日が私たちをポジティブにさせた。また、チームとしての一体感も高まったことが私たちを勝てるように導いてくれたと、私は強く信じている。その影響で、私も色々なことに対してポジティブに向き合える

ことができた。

今まで経験したことや出会った人を思い出すと、きっと自分は彼らの笑顔で励まされ、頑張れた気がする。これから受験生としてしんどい日々を過ごすことになると思うが、悔いを残した高校生活にならないように、忙しい毎日に立ち向かう準備はできた。

来年の桜もまたいつものように、美しく咲いているだろう。

Sさん (7 期生)

「3 年生の 0 学期」

私が高校生になって早くも 2 年が過ぎ、残すところ 1 年を切りました。入学当初はまだまだ硬かった制服も体に馴染み、時の流れを感じさせられます。我が S 高校には、「S 温泉」という別称があります。今年はずっと自分に厳しくしていかなければいけないと頭で分かっているけど、2 年間浸り続けたぬるま湯からは、なかなか抜け出すことができていません。本当は入学前から、もし第 1 志望校に合格してしまったら自分に甘くなってしまうのではないかと心配していました。1 年生の頃からそんなことを心配し続け、他にも悩みを抱えつつ、中途半端な努力をしてきたことも原因にあったと思います。

近頃は、将来の自分の進路に頭を抱えています。日本で安定した毎日を過ごすのか、それとも海外でより多くの刺激を受けて自分の世界を広げた方がよいのかと悩んでいます。もちろん、日本での仕事を見つけ、安定した日々を送る事が一番現実的で安全です。だけど、ここ数年で周りの方からの助言や情報提供によって、私の中の進路選択肢は広がってきました。

また、大学選びも自分の学業に専念し、興味のあることを追い求められる大学がよいのか、それとも世間体を考えた就職に強いと言われる大学のほうが良いのかと悩んでいます。姉からは、就職に有利になるために出来るだけ名門大学に行けと言われてつつ、姉自身の職場の悩みを打ち明けられ、企業系には行かないほうが良いと言われます。姉は高学歴で、私はとても尊敬しています。でも、こんな風に会社の愚痴を言われると高学歴だとしても苦しまなければならないのかと思ってしまいます。また、高学歴ではないけれど毎日楽しく過ごせている人の話を聞くと、どうすれば良いのか分からなくなります。

今後はもっと大学のことについて詳しく調べようと思います。取り敢えず今は、将来お金で悩まずに、苦労しないように、選択肢を増やせるように努力をするのみだと思っています。そして、実際に成績として結果が出せるように今後の学習方法を工夫し、努力していきたいと思っています。

Kさん (6 期生)

1. 高校を卒業して

先日卒業式を迎え、「女子高生」ではなくなりました。残念ながら「女子大生」になるには、私にはもう 1 年必要となりましたが、自分の進みたい道を諦めることなく進めることをありがたく思います。

「女子高生」だったこの 3 年間は一夜の夢だったのではないかと思うほど、あっという間でした。小、中学校の卒業式で良く聞いた「入学したのが昨日のように思える」という言葉を初めて実感しました。この 3 年間で多くの人と出会いその人達から多くのことを学んで人として大きく成長したと思います。この成長がこの 3 年間で夢ではないという確固たる証拠です。

高校一年目。不安を期待で包んで迎えた入学式。学年主任の先生の「今、ここ、私、を大事に 3 年

間過ぎてください。」という言葉の意味が今になって少しわかった気がします。人見知りやひどく、友達ができるか不安でしたが、一生ものの友情を築ける友ができました。

高校 2 年目。この年は、精神的にとっても苦しい 1 年でした。前厄の恐ろしさを知ったと共に、厄払いの大切さを知りました。しかし、この 1 年があったからこそ、いままでより強くなれたと思います。

そして、高校最後の年。「受験」という荒波にただただ揉まれ「高校最後の」を惜しみつつ楽しくこなした 1 年でした。

高校 3 年間で私は、自分で言うのもなんですが、明るく強い人に変われたと思います。それは奨学金のイベントでたくさんの人と知り合い、人見知りを克服でき、この様に作文を書くことで自分の意見や感情を人に伝えやすくなったからでもあります。この 3 年で経験したこと出会った人々に感謝します。

2. 今後の進路について

もう 1 年間勉強して来年こそは、志望校に合格するため予備校に通って頑張ります。

3. 後輩へのメッセージ

- 1) 自分のルーツの国の言語、文化、伝統を大切にしてください。
- 2) 自分が他の国にルーツがあることを誇りに持ってください。
- 3) 自分が決めたゴールを諦めないでください。(遠回りしてもいいです。遠回りしたから見えることもあります。)
- 4) 周りの人の痛み、喜び、怒りを分かろうとし、その人を大切にしてください。
- 5) 自分が好きな自分でいてください。(人は人です。無理に合わせる必要はありません。)
- 6) 夢を持ってください。(小さくても、無謀に見えても持ち続けてください。)
- 7) 常に世界に目を向けてください。
- 8) 全てのことを全力で楽しんでください。
- 9) ルーツのある国も日本ももっと好きになってください。
- 10) 人の価値観も自分の価値観も大切にしてください。

Nさん (6 期生)

1. 高校を卒業して

入学式のときはとてもドキドキしていました。不安がありながらも楽しみでした。最初は移動教室の場所も知らず不安でいっぱいでしたが、時間が経つにつれて慣れました。過ごしていくうちに 1 年間で終わり 2 年生になりました。先生や親と時々進路の話をしました。しかし、自分自身ではまだ 2 年間もあると思ってしまい、どうすればいいかなって思ううちに 3 年生になりました。やっぱり 3 年生になれば、色々と真剣に考えました。まわりはおそすぎると言っていたのですが、自分ではそうでもないかなと思います。なぜなら自分から先生たちに話を聞いて、情報を収集して、また、受験の仕方や科目の確認など、毎日、あれはどうすればいい、これはどうすればいいのかを考えていました。受験が近づいてくるとすごく不安になったり、ストレスを感じました。とても辛かったです。

しかし最後まで諦めずに努力したことは本当によかったと思います。色々な人に支えられて、応援してくれたからこそ、今の自分があると思っています。

2. 今後の進路について

今後の進路は H 大学に進学します。経済学部なので、おそらく経済や経営の勉強をしたいと思います。

また、クラブではダンス部を希望しています。できればダンスをやりながら、大学生活を過ごしたいです。勉強では努力して、学費の免除を目指します。

3. 後輩へのメッセージ

- ・初めは日本語がわからなくて、とても不安になると思いますが、意外と世話してくださる人が多いので、できるだけ安心したほうがいいと思います。
- ・難しいことを言えなくても、日頃のあいさつや感謝の気持ちをしっかりと伝えれば、まず嫌われることはないと思います。
- ・言葉を勉強することは、とても難しいことだと思います。なぜなら読み書き、聞き取りなどすべてのことをクリアしないと上手とは言えません。また、発音も難しくなかなかきれいな発音ができないこともあると思います。そこで恥ずかしがらずに、自分なりの表現で、自分の考えを他人に伝えることで上達しやすいと思うので、試してください。
- ・元々日本人ではないので、日本の文化や習慣を知っておくと役に立つと思います。何かわからないことがあれば、気軽に学校の先生や知り合いの友達に聞けば、教えてくれると思います。日本のことをいっぱい知ると、日本という国の魅力を感じられると思います。
- ・当然周りの人にも手伝ってもらわないと、できないことがたくさんあると思いますが、すべては自分の努力次第なので、最後まで諦めずに頑張ってください。

Yさん (6 期生)

1. 高校を卒業して

思い返すとこの 3 年間はあっという間でした。高校入学時は母が僕を残してペルーに帰省して、1 人暮らしをしていたのが印象的でした。新しい高校生活への希望と不安というより不安のほうが大きいように感じました。そういう心細い時期に、三木の市役所の知り合いを通して出会ったのがこの奨学金でした。日本に来てから日本に溶けこむように生きてきて、自分の国のルーツの大切さを再確認させてくれたこの奨学金の存在は非常にありがたいものでした。

高校 1 年生のときはとにかく疲れました。学校の授業のスピードは中学校のときよりもものすごく速くて、ついていくのが精一杯で分からないところは家で調べたりしたが、予習も多かったのも、とにかく大変でした。それに加え、高校受験中は運動していなかったこともあって体力はなくなって、テニス部でのフォームチェック、フィジカルトレーニング、コートで打つ練習後の自宅学習は、ねむさとの闘いでした。母が日本に帰ってくると、少し余裕が持て、学校生活も楽しくなっていました。3 年生が引退すると、1、2 年生で 50 人だったものの、休みの日にはコートが 8 面も使えたので、一日練習をすると体がボロボロでした。あの時は上手く打てないし、「楽しい」よりも「しんどい」の気持ちが大きかったです。しかし 2 年生になると耐震工事で学校のコートが 8 面から 3 面に減ったので、歩いて 25 分のスポーツ公園に行ってコートを貸してもらいながら練習しました。1 年の時はどれだけぜいたくな環境で練習をさせてもらっていたかが身にしみて実感できた時でした。

2 年生ではどの学校行事も楽しかったのですが、一番良かったのはやはり修学旅行です。3 泊 4 日で沖縄と与論島に行き、ゆったりというよりも濃密なスケジュールで平和学習、エイサー練習、サトウキビがり、マリンスポーツ、バーベキュー、島観光、買い物、ホテルでの時間を楽しみました。本当にいい思い出です。

3 年生になって、部活最後の試合は総体の 2 日目のダブルスでした。硬式テニスは少し特殊で団体戦が終わったあとに、各ブロックで個人戦があるので、これが実質最後でした。その時は 3 回戦ではじめて中シードを倒して準々決勝まで進みました。本当に嬉しかったです。

部活を引退すると、残りは受験でした。正直、受験であまりいい思い出はありません。家に帰ると机に向かって勉強することはできても、いつも集中できる訳でもなく、ほとんどの友人は塾に通っていて、一人孤独だったように感じていました。部活ではいつも友人の後ろ姿を見て見本に出来ても、受験になると一人残された感じがしてとてもつらかったと思います。志望校を高く設定しても、結果はついてこなくて、いつもマイナスに考えてしまう自分が、自分をおしつぶしていき、志望校もあきらめ、浪人もせずに安全志向のもと、興味のある分野が勉強できる大学を選びました。情けない話ですが、なんとか合格することができて良かったと思います。悔しかった分までこれからの勉強に活かしたいと思います。

最後にこの3年間支えてくださった方々、寄附をしてくださった方々や奨学金のスタッフ一同に感謝していることを伝えたいと思います。僕の家庭は母子家庭で妹もいるので、この奨学金は学校生活を送る上でとても貴重でした。学校生活、奨学金でのイベントや交流会を通して本当にたくさんの方々に気にかけてもらいながら、今の生活ができていることが実感できました。3年間本当にありがとうございました。

2. 今後の進路について

僕は4月にK大学のシステム工学群に入学します。そこでは1年間基礎科目をやり、2年目から建築、都市デザインを専攻しようと考えています。高知には、今まで一度も行ったこともないので不安はありますが、1年の時は寮に入ることも決まったので、少しは安心しています。

3. 後輩へのメッセージ

僕が言いたいのは、逆境こそがチャンスということです。僕は日本に小学校2年の時に来たのですが、親は日本語が話せなかったなので、どこへ行っても通訳をさせられ、自然と日本語が話せるようになっていきました。今思うとあれは貴重な体験で、日本語を早く上達させるのに役立ちました。もし中学校で日本に来て、日本語がわからずに苦勞しているなら、今が新しい言語を覚える大きなチャンスだと思って、どんどん話して、失敗してもそこから学んでいってほしいです。

「楽しく学ぼう！多様な文化」を終えて

2016年3月25日、「阪急阪神 ええまちづくり隊」の一環として、阪急西宮ガーデンズホールで多文化体験プログラムを開催しました。テーマは、「楽しく学ぼう！多様な文化ー世界の子ども達に想いをはせようー」です。振り返ってみて、日本には様々な国から来た人たちがいること、そして多様な文化があることを知っていただく素晴らしい機会になったと思います。

当日はとても多くの方に参加していただきました。参加者は約50組の親子で、子どもたちの多くは小学生でした。プログラム内容は、①民族衣装試着・写真撮影、②韓国語・タイ語の体験、③外国の絵本の読み聞かせ、④多文化クイズ、⑤切り絵体験です。どのプログラムも大盛況で、子どもたちは勿論のことお母さん方にも楽しんでいただけました。なかでも、めったに見たり着たりすることのない民族衣装コーナーはとても人気でした。そこでお母さんたちがこぞとばかりに繰り広げる写真撮影大会はとても印象に残っています。

プログラムの準備には、元奨学生やインターンの大学生たちも参加してくれました。彼らは数か月前から準備を始め、何度も案を練り直し、素晴らしいサポートをしてくれました。日本には世界中の方々が住んでおり、言語や文化、習慣などが違うこともあります。そうした方々も含めて、皆が住み良いまちになってくれたら、これがこのプログラムの準備をしてきた人たちの想いです。今回のプログラムを通して、その想いを伝えることができたと思います。そして、このプログラムに参加してくださった方からまた別の方へと、想いの輪が広がっていくことを願っています。

(事務局ボランティア O. N.)

